

最年少の実行委員長誕生

みのくれや農業後継者会等でいろんな方と知り合いになれたので、これから先も人とのつながりを大切にしたい。」と石川さん。



四季フェスみの~れ実行委員会 委員長

石川 弥 来 さん

みの~れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.22

桜の開花が近づいてきた。やさしい桜色にどれだけ多くの人が癒され元気をもらおうのだろうか。出会いと旅立ちの春：みのくれのある四季の里では、四月四日(土)に恒例の「四季の里さくらフェスティバル」が盛大に行われる。今回は、その企画運営を担当する「四季フェスみの~れ実行委員会」の委員長を務める石川弥来さん取材する。

準備着々 晴天を祈る

石川さんは小川地区上吉影の出身。ご両親が北海道出身という石川さんは茨城訛りがなく、優しい言葉使いが印象的だ。

三棟の鶏舎を合わせて六五〇〇羽の養鶏場を営み、朝八時頃から夕方五時頃まで鶏舎に詰める毎日。「子どもの頃から養鶏の仕事が大好きでした」と話す石川さん。高校生の頃は部活が終わると急いで家に帰り仕事を手伝った。

みのくれとの出会いは昨年一月に開催した国民文化祭いばらきビッグバンドジャズフェスティバル。友人のみのくれ職員から声をかけられたことがきっかけだった。ジャズフェス企画の一つ

「おやこDEジャズ」の舞台美術を仕込むスタッフとして、旧小川町農志会の仲間も誘って何日もみの~れに通い詰めた。そのとき、「みの~れに集まる人たちの温かさや熱意に触れた」と石川さん。自ら携わった舞台が子どもたちを楽しませる一助となったことに充実感を覚えた。

その後、四季フェス実行委員の声がかかった。「昨年は四季フェス当日に偶然通りかかり、何かやっているのかな?と素通りしてました(笑)」。旧小川町農業後継者会々長のほか、数々の団体の要職を務めてきた経歴を持つ石川さんのオーラが周りの実行委員に見えたのか、周囲から押されるかたちで初参加にも関わらず実行委員長という大

役を務めることになった。「さすがに不安でいっぱいですが、周りの実行委員の方々が一生懸命サポートしてくれるので大丈夫です」と笑顔で語る石川さん。「四つの部門で一〇〇人以上の方が運営を支えてくださっています。準備は着々と進んでおり、あとは当日の晴れを祈るだけです」。

四季の里さくらフェスティバルに来てくださる方々に、「一日中楽しんでもらえるよう、たくさんイベントを用意してお待ちしております。満開の桜を眺めながら幸せを見つけにぜひ来てください」とメッセージを送っていた。

(藤田佐知子)